

<令和3年度予算（案）の概要の説明>

●令和3年度予算重点施策について（資料7ページ）

『持続可能で活力ある地域経済をつくる』

「産業振興」については、地域経済の発展に寄与する人材の育成など、十勝・イノベーション・エコシステムの取り組みを通じて、事業創発の加速化を図るほか、地元企業のものづくりや販路拡大などを支援し、中小企業の経営基盤の強化を図ります。

「観光振興・交流人口の拡大」については、潜在的な移住希望をもつ都市部の大学生などを対象に、十勝・帯広への移住促進を図るためのマッチングプログラムなどを実施するほか、首都圏等の十勝ファンの知見などを地元企業の取り組みや市の施策に活かすための仕組みを構築します。

また、感染症対策として、十勝・帯広の雄大な自然景観等の魅力ある地域資源を活かし、首都圏等の企業が市内でワーケーションやリモートワークに取り組めるよう、ポロシリ自然公園に Wi-Fi 環境などを整備します。

『新しい未来を切り拓くひとをつくる』

「学校教育環境の充実」については、コミュニティ・スクール導入校を拡充するとともに、子どもの読書環境の充実のため、国の基準冊数に対する蔵書率が100%となるよう図書資料を整備するほか、ICT活用による教職員の指導力向上や情報教育の充実を図るため、小中学校に「おびGIGA支援員」を派遣します。

また、大空学園義務教育学校の令和4年度の開校に向けて校舎などを整備するほか、小学校（3、4年生）の机・椅子の更新や、トイレの洋式化に加え、感染症対策として、教室の換気効果を高めるため、特別教室等に網戸を設置するなど、学校環境を整備します。

「生涯学習環境の充実」については、緑ヶ丘公園西区域を「アイヌ文化とのふれあいゾーン」とし、百年記念館、野草園、動物園の3施設が連携しながら、デジタルコンテンツを活用した情報発信などにより、アイヌ民族への理解促進や、文化の普及・啓発を図ります。

また、子どもの知的好奇心や探求心を喚起するため、児童会館に簡易科学実験体験ブースやネットロープ遊具などを整備するほか、動物園の魅力アップに向け、老朽化しているアザラシ舎を改修します。

「少子化対策・子育て支援の充実」については、産後の母親の身体的・精神的回復を促し、セルフケア能力を高めるため、産後ケアの利用期間を延長するとともに、養育困難な家庭や多胎児家庭に対し、育児経験を持つヘルパーなどによる育児・家事支援を実施するほか、感染症対策として、BCG 予防接種を臨時的に集団から個別接種に移行します。

また、低年齢児の保育ニーズに対応するため、緑ヶ丘保育所に新たに0歳児室を整備するほか、施設型給付幼稚園に移行する幼稚園に対し、施設給付を開始します。

『安心して日常を過ごせるまちをつくる』

「防災・安全安心」については、災害時の被害想定の見直しに伴い、アルファ米や毛布などの災害用備蓄品の追加整備を行うほか、災害用備蓄品の一元管理に向け、新たな拠点備蓄倉庫を建設するとともに、感染症対策に必要な物品などを各指定避難所に分散して備蓄するための倉庫を整備します。

「環境保全」については、家庭部門からのCO2排出量を削減するため、新エネルギー導入促進補助金の対象にエネファームを追加するほか、国の温室効果ガス削減目標達成などのため、森林環境譲与税を活用し、私有林の整備や林業の担い手確保などを支援します。

「福祉の充実」については、経済的な理由により医療機関から無料低額診療事業の適用を受けている市民に対し、事業の対象外となっている院外保険薬局の調剤処方費用を助成する制度を新設するほか、地域で暮らす障害のある人の相談内容の複雑化・多様化に対応するため、一般相談支援事業所の相談支援機能の充実を図ります。

「自治体経営の推進」については、利便性向上のため、市庁舎窓口での諸証明発行手数料の納付にキャッシュレス決済を導入するとともに、感染症対策として、市税、保険料などの納付にキャッシュレス決済を導入するための整備を行います。

「公共施設等の適切な管理」については、公共施設の長寿命化改修を実施するほか、とちぎ帯広空港、稲田浄水場等を整備します。

「社会基盤の整備」については、引き続き市民生活の基盤となる道路、上下水道等のインフラを整備します。

このほか、感染症対策として、新型コロナウイルスワクチン接種に向けた体制整備を進めるとともに、国や北海道の動きと連動し、医療従事者等へのワクチン接種を実施します。

●各会計予算総括表について（資料1ページ）

特別会計では、

介護保険会計は、保険給付費の増などにより、前年度当初予算対比
8億8,960万5千円、5.9%の増。

ばんえい競馬会計は、勝馬投票券発売収入の増などにより、前年度当初予算対比
114億2,168万円、39.3%の増。

空港事業会計は、空港運営の民間委託に伴う一般会計への移行により皆減。

企業会計では、

水道事業会計は、配水管整備事業費の増などにより、前年度当初予算対比
3億4,285万4千円、4.9%の増。

●一般会計歳入総括表について（資料 3 ページ）

第 5 款 市税は、地方財政計画等を勘案し、216 億 4,415 万 5 千円を計上し、前年度当初予算対比 10 億 9,809 万 9 千円、4.8%の減。

第 37 款 地方特例交付金は、新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金の増などにより、前年度当初予算対比 1 億 4,515 万円、101.4%の増。

第 40 款 地方交付税は、地方財政計画等を勘案し、140 億 329 万 6 千円を計上し、前年度当初予算対比 5,768 万 8 千円、0.4%の増。

第 60 款 国庫支出金は、空港事業会計から一般会計に移行する空港整備費や、学校環境整備費の増などにより、前年度当初予算対比 8 億 1,255 万 2 千円、5.3%の増。

第 65 款 道支出金は、地域介護・福祉空間整備費の減などにより、前年度当初予算対比 1 億 3,234 万 7 千円、2.3%の減。

第 70 款 財産収入は、土地売払収入の減などにより、前年度当初予算対比 1 億 6,758 万 5 千円、64.5%の減。

第 75 款 寄附金は、ふるさと納税の返礼品などに係る経費の財源を財政調整基金繰入金から寄附金に変更したことに伴い、前年度当初予算対比 2 億 8,677 万 9 千円の増。

第 80 款 繰入金は、商工観光振興基金繰入金や財政調整基金繰入金の減などにより、前年度当初予算対比 1 億 4,204 万 1 千円、34.8%の減。

第 95 款 市債は、臨時財政対策債の増などにより、前年度当初予算対比 16 億 2,475 万 4 千円、32.2%の増。

●一般会計歳出総括表について（資料4ページ）

第10款 総務費は、おびひろ応援寄附金推進事業や防災拠点施設等整備費の増などにより、前年度当初予算対比 2億4,702万円、13.0%の増。

第15款 民生費は、地域介護・福祉空間整備費や国民健康保険会計繰出金の減などにより、前年度当初予算対比 1億8,233万4千円、0.6%の減。

第50款 教育費は、大空地区義務教育学校整備費や学校図書資料整備費の増などにより、前年度当初予算対比 5億9,769万1千円、9.6%の増。

第55款 公債費は、令和2年度に発行する猶予特例債の元金償還の増などにより、前年度当初予算対比 3億4,892万6千円、4.2%の増。

第65款 職員費は、退職手当や特別会計から一般会計に移行する職員給与費の増などにより、前年度当初予算対比 3億7,055万2千円、3.4%の増。

なお、これらの予算案につきましては、3月1日招集予定の議会に提案します。